東京山桜会　第10回「郊外教授」

佐伯　文子（大中・高19期）

平成20年11月13日、東京山桜会会員は、原宿の南国酒家に21名集まり、とてもおいしい上品なお味を楽しみ、種類もたくさん楽しみ和気藹々と話しに花を咲かせました。皆様舌鼓を打っておられました。お腹もいっぱいになり、荒川良雄氏（大・中高4期）の明治神宮についての講義もきいて、私達は明治神宮に向かいました。晴天に恵まれ菊の花も展示され、懸崖が美しかったです。笠間稲荷神社奉献の懸崖が本殿の入口の両端にかざられてありました。大きい懸崖でした。初詣参拝人数全国一位を誇る神社に、おまいりをし写真をとり散策しました。今は、こんもりとした緑がとても多い明治神宮の森は、実は人工的に造られた森だったときいて驚きました。うっそうたる森・鳥居・玉砂利の参道は、参拝に来る人々を敬虔な雰囲気にさせてくれます。大正時代に人がつくった森だそうです。明治天皇が明治45年7月30日崩御され、ご陵墓はご在世中に伏見桃山の地に内定しており、ご陵墓に代わるものをという東京市民の熱意は「神宮」を東京市内に造営・奉祀という声になり国民世論の支持を受け政府は大正2年12月、南豊島御料地を神社敷地として内定し、大正4年4月「明治神宮造営局」という工事を担当する組織ができ総裁（皇族）、副総裁（内務大臣）の下に、各職城の人々が勤務しており、特筆することは勤務した人の中にその後のわが国の造園学会、全国の都市計画・公園計画・緑化事業などに果たした役割が極めて大きい人々がいたことです。

明治神宮は、洪積層の大地で明治22年までは、広漠とした武蔵野の一角を形成していて「草色遠く相列なりたる原野にして、すこぶる遊観に適せる」と明治神宮造園誌に記載されています。江戸時代この敷地は、熊本藩主加藤忠弘の別邸でしたが、1617年将軍徳川家光がこの地を彦根藩主井伊直孝に与え、直孝はここが気に入り庭園に改修して千駄ヶ谷屋敷と呼んでいました。明治になりこの土地は皇室のものとなり、その庭園の大部分を皇后の散策の場として改修しました。改修にあたり明治天皇は園路の位置、ハナショウブの植栽等こまごまと指示されたそうで、これが現在常時公開している明治神宮御苑です。森作りの計画は、造林学の先生本田清六の弟子、上原敬二が考え、仁徳陵がヒントになり、三輪神社は本体が山であることから、『神社はうっそうたる森の中に神社はなければならぬ。』という考えにいたったのです。古代の神社には神殿という建築物はなく、人々は動物・植物・森そのものに神霊が宿ると考えていました。鎮守の森に表される日本独特の神社の森は、荘厳な風致を必要とし、参拝者に敬虔な気持ちを起こさせる幽邃森厳な雰囲気を醸し出す林相でなくてはならないのです。神宮の森をつくる最も基本になったことは、自然林に近い状態、そして永遠に維持存続させることでした。林苑の植栽計画は、50年後、100年後、150年後の変化を念頭に置いた3段階の予想林相図を作り樹種として高木（10m以上）ではマツ以外は広葉樹が、低木類では常緑広葉樹があります。マツのような初期の森林を構成する先駆樹種で、直射日光にも強く、関東の冬の乾燥風にも耐える樹種を混ぜながら、各種の針葉樹や落葉広葉樹を混植し、自然の変遷にゆだねながら東京付近の自然植生である常緑広葉樹林に誘導してゆく遠大な計画です。工事は6年を要し、面積72.7ヘクタール、周囲は、皇居一周の半分以上約3,315mです。必要な樹木は在来樹木の利用のほかは献木でまかない造営時の立木数約12万本の約80％の約9万6千本になりました。身体強健・性質純良な者1万1千人余りが奉仕作業に参加しました。現在の代々木の森の主木であったマツ類は点在する程度になり、ヒノキ・サワラ・スギ等の針葉樹も部分的にすぎず、カシ・シイ・クスなどの常緑広葉樹が優勢種となっておりほぼ予想通りに実現しているそうです。落葉をそうじするホウキは、長い竹の柄だけ配布され、はく先の方は手作りでサアッと横に一はきするときれいに落葉がとれ横にまた一はきサアッとすると、またきれいに参道がなり、コツがあるようです。いつもきれいにされています。南参道を歩いていくと川がありますが、清正井（加藤清正が掘ったと伝えられる名湧水）がありたえず水が湧き出て、それが原宿駅の下を通って竹下通り（若者の通り）のブラームスの小径の方に流れていっています。小径を歩くと石のレンガの側壁やマンホールが見られ、明治通りにブティックの店並に大きな石垣の側壁があるのは、大きな道路を作るため斜面を造成した時補強されたもので、東京オリンピックの時にさらに造成され川が地上に見えていたのが地下になり、いまもその根跡がところどころ石レンガや石垣など見え、当時を物語っています。私達は、竹下通りを通ってブラームスの小径を通りクリスティというお店でティータイムをとりました。ケーキを食べながら飾ってある額をみるとビートルズの4人のサインがありました。常連さんが、日本にビートルズを呼んだ人の奥さんだそうです。「ビートルズもここに来たのかなあ?」ごく普通の感じの喫茶店でした。ゆったりと休みお茶しました。今日も有意義に秋を楽しく過ごし活歩して家路に東京山桜会員は帰りました。

「校外授業」次回のお知らせ

東京山桜会　第11回「校外授業」は、東京都文京区にある「小石川後楽園」において、平成21年12月5日（土）に行います。実施要領の細部等は、希望される方へ、本年11月上旬頃お手元へ郵送させて頂きます。

小石川後楽園は、東京ドームの隣にありますので交通の便のよさは都内屈指と言っても宜しいでしょう。また12月上旬は紅葉狩がてら庭園鑑賞の人々で賑わいます。この庭園は徳川時代、水戸藩主の上屋敷の庭であって、特別史跡・特別名勝に指定されております。